

万物は 流転する

宇宙・生命・情報・文化の過去・現在・未来

知の拠点群『大学共同利用機関』が拓く科学の広大なフロンティア

2010 11/20(土)

入場無料

12:00-17:00

ベルサール秋葉原 2Fイベントホール
JR 秋葉原電気街口より徒歩4分

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

国立大学法人 総合研究大学院大学

国立歴史民俗博物館／国文学研究資料館／国立国語研究所／国際日本文化研究センター／総合地球環境学研究所／国立民族学博物館

国立天文台／核融合科学研究所／基礎生物学研究所／生理学研究所／分子科学研究所

素粒子原子核研究所／物質構造科学研究所／加速器研究施設／共通基盤研究施設

国立極地研究所／国立情報学研究所／統計数理研究所／国立遺伝学研究所

宇宙科学研究所

主催／大学共同利用機関協議会

[お問い合わせ] 大学共同利用機関協議会 広報ワーキンググループ事務局

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6 TEL.0572-58-2006 ✉ int-univ-symp2010@nifs.ac.jp

URL <http://www.nifs.ac.jp/int-univ-symp2010>



万物は流転する

大学共同利用機関シンポジウム2010

宇宙・生命・情報・文化の過去・現在・未来
知の拠点群『大学共同利用機関』が拓く科学の広大なフロンティア

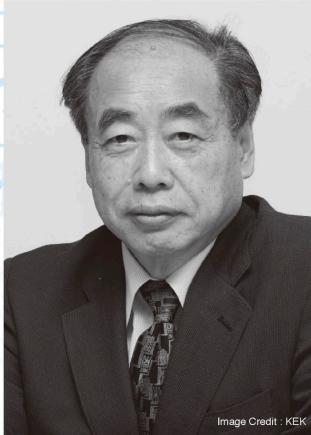
LECTURE

1

素粒子と宇宙

物質の基本的な構成要素である素粒子の世界では、粒子の生成・消滅や異なる種類への遷移が起きるが、これは宇宙の進化にも深く関わっています。

自然は最も基本的なところで、「不变」ではないことを説明します。



ノーベル物理学賞受賞者

小林 誠

PROFILE

独立行政法人日本学術振興会理事・学術システム研究センター長。高エネルギー加速器研究機構 特別栄誉教授。理学博士。1972年名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了。専門は素粒子理論。2008年ノーベル物理学賞、文化勲章受章。

LECTURE

2

南極氷床コアが明らかにした 地球環境100万年の変動



国立極地研究所 教授
本山秀明

南極や北極の氷床コアから過去100万年から現在までの地球環境変動が明らかになってきました。さらに氷床コアは学際的研究として、気候・環境変動のみならず、地球磁场・太陽磁場、微生物、超新星爆発、宇宙塵などの変動も研究テーマとなっています。

国内外の研究者・研究機関が協力して氷床コアの採取や氷床コア研究を実施しており、そのハイライトを紹介します。

PROFILE

情報・システム研究機構国立極地研究所教授。理学博士。

1987年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了。専門は雪氷水文学。氷床コア研究による古環境復元、極域の水循環に関する研究、国内の季節積雪地帯及びアジア高山域の水循環に関する研究を行った。

1982年～1987年ネパールヒマラヤ冰河調査、1988年アラスカツンドラ融雪氷水調査、1989～現在南極地域観測隊参加(越冬3回、夏6回)、1991年～2007年グリーンランド掘削及び微生物調査、1994年～1999年スバルハル掘削等海外調査歴多数。

LECTURE

3

変わる文化を追う — 極東ロシアの先住民族の歴史から



国立民族学博物館 教授
佐々木史郎

流転する万物はものに限りません。人間が作り上げた制度、社会、そして文化も急速に変化していきます。しかし他方で、「民族文化」といわれるものには何百年と保ち続ける核のようなものも存在します。人間の文化はどの部分が変わり、どの部分が変わらないのでしょうか。文化を変える要因にはどのようなものがあるのでしょうか。そのようなことについて、日本文化とも密接な関わりを持つ、極東ロシアの「先住民族」とよばれる人々の文化を題材にして考えます。

PROFILE

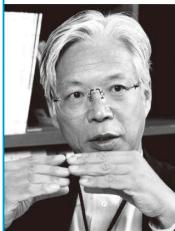
人間文化研究機構国立民族博物館民族社会研究部教授。

1985年東京大学大学院社会学研究科博士課程中退。1985年国立民族学博物館助手、91年大阪大学言語文化部助教授、95年国立民族学博物館助教授、2003年国立民族学博物館教授、現在に至る。専門は文化人類学。シベリア、ロシア極東地域の先住諸民族の狩猟文化とトナカイ飼育文化の研究、ロシア極東地域の先住諸民族の近世史と近代史の研究を行う。主な著書に『北方から来た交易民一絹と毛皮とサンタレン人』(1996年日本放送出版協会)、共編著に『東アジア内海世界の交流史:周辺地域における社會制度の形成』(2008年人文書院)などがある。

LECTURE

4

4次元イメージングで観る 新しい自然像



生理学研究所 教授
永山國昭

天文台、核融合研、分子研、基生研、生理研の5研究所による自然科学研究機構がスタートして6年。機構の共通言語をイメージングに求めて、ほぼ同時期に「イメージングサイエンス」がスタートしました。自然科学分野は広大で内容も多岐に亘りますが、イメージング手法には共通性があり、銀河からウイルスに到るイメージングデータの3次元化(立体化)、4次元化(立体動画)に連携の方向を見出しました。その成果を新しい自然像として皆様に観賞して頂きます。

PROFILE

自然科学研究機構 生理学研究所兼岡崎統合バイオサイエンスセンター教授。理学博士。

1973年東京大学大学院理学系研究科満期退学、74年理学博士。同助教、日本電子(株)生体計測学研究室長、科学技術振興事業団ERATOプロジェクト総括責任者、東京大学教養学部教授、生理学研究所教授を経て2001年より現職。専門はイメージングサイエンス、電子線顕微鏡学、生命の熱力学的基礎論。

2010.11/20(土) SCHEDULE

12:00-13:00	受付／ブース展示
13:00-13:15	開会挨拶 下村 理 (平成22年度共同利用機関協議会会長)
13:15-14:00	講演1 小林 誠 (ノーベル物理学賞受賞者)
14:00-14:45	講演2 本山秀明 (国立極地研究所 教授)
14:45-15:15	休憩／ブース展示
15:15-16:00	講演3 佐々木史郎 (国立民族学博物館 教授)
16:00-16:45	講演4 永山國昭 (生理学研究所 教授)
16:45-17:00	閉会

[会場]

ベルサール秋葉原
2Fイベントホール

JR秋葉原駅電気街口より徒歩4分

